

VRE の全棟検査及び今後の対応について

1 概要

三浦市立病院において、薬剤が効きにくい耐性菌のひとつであるバンコマイシン耐性腸球菌（以下「VRE」という。）が検出されました。すべて保菌者で発症者はおりません。

当院は、鎌倉保健福祉事務所三崎センター、神奈川県院内感染対策支援体制の横浜・湘南ブロック主幹事病院である横浜市立大学附属病院及び横須賀共済病院より助言及び指導を受け、保菌者が出た病棟の検査を行い、対応を図って参りましたが、今般、病院全体のさらなる感染防止に努めるべく、全病棟において一斉に検査を行いました。

2 検査結果

平成 28 年 7 月 20 日に実施した全棟検査の結果は、95 名検査を行い、陽性者は 21 名でした。同月 28 日現在、入院中の陽性者は 20 名です。

3 感染対策

(1) 病室管理

保菌患者については 3 階病棟に集約し、感染拡大を防ぐため、個室又は大部屋に集めて対応しています。

(2) 入院時検査

入院時に全入院患者に対して VRE の検査を行い、陽性者を確認し、適切な病室管理を行います。

(3) 全棟検査

全入院患者を対象とする VRE 検査を定期的に行い、院内の感染状況を監視します。

(4) 職員の感染防止対策の徹底

引き続き、手洗いの強化、患者に接触する場合は手袋、ガウン、エプロン等を着用しての対応、保菌患者の直接使用する物品の専用化等を行っています。

(5) 職員教育の充実

職員に対して知識や技術の教育を行うとともに職員間の情報の共有化を図り、感染防止対策の再確認の徹底を図ります。

(6) 環境清掃の強化

院内におけるトイレ、ドアノブ、手すり、ベッド柵などの拭き取り清掃を使い捨てのクロスを使用し、清掃回数を増やして強化を行っています。引き続き、職員及び清掃の委託業者への指導を徹底します。

(7) 抗菌薬適正使用の強化

耐性菌対策として、院内における抗菌薬の適正使用の徹底を図ります。

(8) 外部有識者からの指導・助言

横浜市立大学附属病院等の外部有識者と全棟検査の結果等を共有し、必要に応じ、対策について指導・助言をいただきます。

4 今後に向けて

三浦市立病院職員一同、VREの終息に向けて対策の徹底に取り組んで参りますが、患者さん、患者さんのご家族、地域の介護施設等の方々のご協力が必要です。感染対策の大切さについてご理解いただきますよう、お願い申し上げます。今後も当院職員の説明、院内掲示などにより感染対策について周知に努めて参ります。

*1 VREとは

人間の腸内に一般的に存在する腸球菌という菌があります。VREとは、バンコマイシンという抗菌薬に対して薬剤耐性を獲得した腸球菌の一種です。

VREの病原性は非常に弱く、健康な人が感染しても病気を起こすことはありません。しかし、病気で抵抗力・免疫力が低下している人が保菌している場合に感染症を発症することがあるといわれています。

VREは、接触感染により広がります。VREを持っている人の便から排出されたVREが保菌者の手から人へ、あるいは医療従事者やベッド柵、トイレ、ドアノブ等の環境を介して広がっていきます。そのため、医療機関においては、この菌の広がりを防ぐ対策が必要となります。

平成28年7月28日

三浦市立病院総病院長